

脳卒中にならない、 なったら治す

～その予防と最先端のリハビリテーション医療～

2018年8月26日(日) 15:00-16:00

場所：アオッサ 8F



講師 安保雅博 先生

東京慈恵会医科大学附属病院 副院長

リハビリテーション医学講座 主任教授

略歴

平成2年 東京慈恵会医科大学卒業

慈恵医大第三病院で研修後、

神奈川県リハビリテーション病院、東京都立大久保病院勤務

平成10年04月～平成12年05月

スウェーデン カロリンスカ研究所/病院

Department of Clinical Neuroscience に留学

平成19年 東京慈恵会医科大学リハビリテーション医学講座主任教授

平成21年 首都大学東京客員教授

平成27年 京都府立医科大学大学院医学研究科客員教授

平成28年 東京慈恵会医科大学附属病院 副院長就任

超高齢化になり、年齢が危険因子となる疾患が増えてきました。その中で、もっとも注目されているのが脳卒中です。脳の血管が詰まったり、破けたりする疾患です。2025年には二人に一人が脳卒中であるともいわれています。また、要介護5の原因の第一位です。

認知症も注目されていますが、脳血管障害がベースになっているものが多々あります。つまりは、脳卒中にならないことは認知症にならないことにもつながります。

この市民公開講座では、脳卒中にならないための予防からリハビリテーション医療まで、最先端のリハビリテーション治療を紹介しながらお話しします。

主催：第9回 Stimulation Therapy 研究会

運営事務局：医療法人寿人会木村病院